

## 全校に広がるあいさつの輪 ～本校におけるあいさつ運動の取り組み～

熊本県立小国支援学校

「おはようございます！」子どもたちの元気な声で小国支援学校の一日は始まる。

本校では、児童生徒の登校時に、児童生徒会役員が毎日あいさつ運動を行っている。児童生徒会役員は、他の児童生徒より少し早めに登校して、8時50分に玄関前に集合し整列して、9時に登校してきた児童生徒に対してあいさつを行う。あいさつのポイントとして、「①気をつけをして ②相手の目を見て ③笑顔で ④聞こえる声で」という4つを掲げ、それを意識しながらあいさつをしている。正門を抜け、登校して一番に聞く声は役員のあいさつの声ということになる。うつむきながら登校した生徒も、役員のみんなの元気なあいさつを聞くと顔を上げ、小さなながらもあいさつを返してくれる。役員に負けまいと、元気な笑顔であいさつを返してくれる子もいる。児童生徒会役員の毎日のあいさつは、小国支援学校児童生徒にとって、学校生活が始まることを意識させてくれる大切なものになっていると感じている。

また、あいさつに対する意識の定着と向上をより一層図るため、昨年度より、学期毎に各クラス（小学部は学部で）であいさつ運動を行う「あいさつ旬間」を設定した。あいさつ旬間では、各クラスの担当日を定め、クラス全員が8時50分に玄関前に集合してあいさつ運動を行う。そしてその様子を動画で撮影し、旬間終了後には、その動画



を見て、職員が投票し、あいさつベストクラス賞を決め、表彰することとした。取り組みを始めた昨年度の1学期は、まず全員揃う事が難しかったり、恥ずかしがってあいさつをすることができなかつたりという様子が見られた。しかし、ベストクラス賞の表彰や、選ばれたクラスの動画



を見て良いところを探すことで、自分たちもベストクラス賞をとりたい！という気持ちが全員に生まれてきたようだった。2学期のあいさつ旬間には、時間通りに全員が集まるクラスがほとんどで、あいさつの仕方も、合図を出し合ったりおじぎを取り入れたり自分たちで工夫する様子が見られ、子どもたちのあいさつに対する気持ちの変化が感じられた。子どもたち同士であいさつのポイントを確認し合ったり、

注意点を指摘しあったりする姿もあり、クラスの団結力も高まったのではないかなと思う。また、あいさつのポイントの定着も進み、意識してあいさつに取り組むことができるようになった。3学期には、クラス賞に加え、個人賞も設定した。個人賞は、旬間だけでなく、普段の様子も含めて選考を行った。普段取り組んでいることを認められることは、子どもたちにとっても自信になり、学校生活への意欲へとつながっていくのではないかなと思う。

また、このあいさつ旬間を行ったことで、学校生活においてもよりよい変容が見られてきた。旬間中のあいさつを褒められたり、表彰されたりしたことで、あいさつをすることが苦手であった中学部の生徒が、「あいさつ運動でお手本となるあいさつをする」ということを目標に役員に立候補した。その生徒は現在、児童生徒会役員として毎日のあいさつ運動に取り組んでいる。

以前は、児童生徒会役員の仕事としてであった朝のあいさつが、全校児童生徒へと広がり、自分たちも積極的にあいさつを行うのだという意識の向上を感じるようになってきている。学校の雰囲気明るくする子どもたちの声。人を笑顔にできるようなあいさつが当たり前のように、そしてコミュニケーションの入り口であるあいさつを、どんな場所でもできるように、この取り組みを続けていきたい。